

市立枚方宿鍵屋資料館の施設の概要及び管理運営状況について

本施設は、平成 18 年(2006 年) 4 月 1 日から指定管理者制度を導入し、指定管理者が管理運営業務を行ってきました。

施設の概要及び制度導入後における管理運営状況(直近の 3 か年)については、次のとおりです。

1. 施設の概要

名称	市立枚方宿鍵屋資料館
所在地	枚方市堤町 10 番 27 号 (京阪電鉄枚方公園駅徒歩5分)
施設内容	①開 館 平成 13 年(2001 年)7月3日 ②敷地面積 810.49 m ² ③建築面積 496.55 m ² ④延床面積 840.86 m ² ⑤建物構造・主な施設内容(構成施設の内容) ・主屋(木造平屋) 部屋9室、土間等 ・別棟(木造2階)1階 展示室5室、事務室等 2階 大広間等 ・蔵(土蔵造2階)1階・2階 倉庫
開館時間	午前9時 30 分～午後5時(午後4時 30 分を超えて入館することはできない)
休館日	毎週火曜日(その日が国民の祝日に関する法律に規定する休日に当たるときは、その後において最も近い休日でない日) 年末年始(12/29～1/4)

2. 鍵屋の歴史、資料館の展示構成等

(1) 枚方宿・鍵屋の歴史

枚方は、京・大坂の中間に位置し、交通の要衝として賑いました。枚方宿成立の直接の契機は、豊臣秀吉が築堤した文禄堤で、その後、徳川家康により街道が整備され、江戸時代初期に枚方宿が成立しました。枚方宿は、宿場町としてだけでなく、京と瀬戸内や大坂を結ぶ物資輸送の大動脈であった淀川の水上交通中継地でもあり、物資の集散地の役割を果たし、周辺農村の中核的機能を果たしていました。

岡新町、岡、三矢、泥町の 4 村で構成され、東西 13 町 17 間(1,447m)で本陣や問屋場のほか、旅籠や茶店が軒を並べていました。この歩みは、明治以降現代に至る枚方の都市化のルーツとなっています。

鍵屋は枚方宿の歴史を今に留める数少ない貴重な歴史遺産です。三十石船の船宿として栄え、「鍵屋浦には碇が要らぬ、三味や太鼓で船止める」とまで唄われました。江戸時代中頃にはくらわんか舟の営業権を有し、近代においても営業を続け、枚方を代表する料理旅館として名高い存在でした。

(2) 鍵屋の特色

主屋は、京街道に面し枚方宿を代表する町家であり、建築学及び考古学的調査から 19 世紀初頭に建築されたと推測されます。船宿当時の形式を今日によく残し、旧枚方宿を代表する遺構であることから、平成 9 年 4 月 1 日付で本市の有形文化財に指定し、また鍵屋全体を平成 10 年 4 月 1

日付で史跡に指定しました。

主屋東棟は、街道に面する表口を入ると東側に3間の客間が続き、ヒロシキ（広い板敷の間）があります。船待ちの客に酒や団子等を供していたと考えられます。鍵屋の所在する三矢村堤丁は、街道と淀川が最も近接するところだったので、家の裏手は淀川に面しており、トオリニワを抜けると船着き場に出ることができました。

西側は、手前がカマヤ（炊事場）、奥にダイドコロがありました。カマヤは、一般には家の裏手にあり、このような例は少なく、煮売屋などカマドを使う商売をしていた町家に限られています。

また、正面には、4枚の摺り揚戸があり、現代のシャッターのようなもので、滑車を用いて戸を揚げ、暖簾を架けていました。街道に向かって広く開口し、客の出入りが容易でした。

西棟は、2列×3間に間仕切りし、漆喰敷の玄関とする西南の1間を除く5間を居室としました。利用方法は定かではありませんが、東棟に随する建物として例えば旅籠等とされていた可能性が考えられます。

別棟は、料理旅館として昭和初期に建てられた近代和風建築です。昭和3年に新築された西棟と、それに先行して建てられていた東棟を、昭和8年頃に廊下や階段を繋いで一体化されました。内部は東棟の1階に玄関、西棟は2階に63畳からなる大広間を配し、その他を客室としています。地階には淀川からの船入石垣が残っており、鍵屋の裏手に流れる淀川の船着場になっていた頃の様子がわかります。以上のことから、令和5年8月7日付で国登録有形文化財（建造物）に登録されました。

(3) 展示構成

① 主 屋

主屋は、江戸時代の姿に復原し、枚方宿の町家そのものを公開することに主眼をおきます。各部屋の使われ方が視覚的に理解できるように、カマヤにカマド、ナガシ施設、客間には長火鉢、煙草盆などを置いています。

② 別 棟

別棟は、昭和初期に増築された豪壮な和風建築で、2階大広間をはじめ式台玄関や床の間など、格式を誇る料亭の特徴を持ちます。1階の西棟5室を展示室に使用し、南側3室は和風建築の意匠をできるだけ残し、北側2室は畳敷きを板敷にするなど機能的改修を行い展示しています。

【1階】

A. 鍵屋の歴史(6畳和室)

鍵屋の歴史を紹介し、鍵屋が江戸時代に船宿として栄えたこと、近代に別棟を増築し料理旅館として名を馳せたことを解説しています。

B. 発掘された枚方宿(6畳和室)

枚方宿で実施した発掘調査の成果を出土品やパネルを使って紹介するとともに、一般に「くらわんか茶碗」として親しまれている磁器碗の変遷を辿ります。

C. 昔日の鍵屋(4畳半和室)

資料館として活用する鍵屋を、「河内名所図会」や鍵屋間取図を元に、江戸時代の鍵屋を模型復原し、鍵屋だけでなく枚方宿の町家が堤上に立地し、淀川に接していたことを解説しています。

D. 枚方宿と街道(約 14 畳展示コーナー)

枚方宿の概要を「成立」「構成」「町並と往来」などのテーマ別に、古絵図や民具などによるケース展示、パネル、大名行列の模型などを使って紹介しています。

E. 淀川の舟運(約8畳展示コーナー・元船入り場)

「ミラービジョン(模型と映像による複合演出装置)」でくらわんか舟が三十石船を相手に商売する様子をリアルに再現するとともに、原寸大模型の「くらわんか舟」と舟運の関係資料などを紹介しています。

【2階】

・笹の間(8畳)

過度な装飾のない、端正で格調高い座敷です。襖には中原南天棒・鳥居素川の墨書があり、欄間には日本画家・中井吟香の描いた絵が残されています。

・大広間(63畳)

折り上げ格天井に床構えを有しており、格式を保ちながら明るく開放的な空間構成をとっています。近代期の料理旅館として特徴的な部屋です。

(4)その他の利用方法

- ①別棟 2 階の大広間を利用して、企画展に関連した講座や伝統文化に関する講座・イベントを実施しています。
- ②別棟 1 階の廊下スペースを使って、枚方宿・鍵屋をはじめとして資料館にふさわしい絵画・写真等の展示を行っています。
- ③現在、自主事業として以下の事業を実施しています。
 - ・大広間の雰囲気を活かした各種イベント。
 - ・もてなし文化の充実を図ることを目的に、大広間や和室を利用し、仕出し弁当を提供（事前予約制）。
 - ・関西文化の日にあわせ、中庭でお菓子やコーヒーを提供する「かぎや蔵前カフェ」を実施。
 - ・「くらわんか五六市」（8月を除く毎月第2日曜日）にあわせて、主屋を利用し地元特産品の紹介や販売をする「鍵屋太兵衛商店」を実施。
 - ・淀川河川公園で開催される「水都くらわんか花火大会」にあわせて、大広間から淀川の夕景・夜景を眺めながら料理等を提供する「初秋の鍵屋で夕涼み」を実施。
 - ・船会社と連携し、淀川舟運イベントを実施。
 - ・枚方宿や鍵屋に関連する商品の販売等。

3. 管理運営状況

(1)施設の利用状況(入館者数)

(単位:人)

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
大人	3,968	5,798	6,363
高校生・大学生	124	178	184
無料入館	1,284	1,374	1,652
減免入館	349	352	421
総計	5,725	7,702	8,620

(2) 収支状況

① 収入

(単位:円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入館料	806,200	1,166,800	1,277,600
指定管理料	23,754,018	23,461,617	22,502,875
参加費収入	362,720	519,700	541,700
雑入	18,020	34,031	57,922
自主事業収益	30,000	30,000	30,000
合 計(a)	24,970,958	25,212,148	24,410,097

② 支出

(単位:円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費	16,630,006	17,209,829	15,969,570
保険料	28,390	9,050	7,550
報償金	437,530	461,010	417,300
旅費	5,160	11,920	8,300
広告料	33,000	-	-
消耗品費	743,218	413,223	312,798
通信運搬費	196,836	166,334	154,668
使用料・賃借料	365,727	343,147	358,769
印刷製本費	753,100	91,410	44,410
修繕料	800,230	723,328	221,650
光熱水費	1,306,625	1,646,236	1,355,961
委託料	3,349,667	3,556,420	4,121,619
資料購入・保存修復費	230,270	160,958	84,785
備品購入費	72,380	184,250	145,255
租税公課	800	-	-
雑費	64,651	86,990	41,443
研修費	-	15,320	-
合 計(b)	25,017,590	25,079,425	23,244,078

(3) 差額の推移 (円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
収支差額(a-b)	-46,632	132,723	1,166,019